

令和 2 年 6 月 8 日現在

機関番号：32704

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02607

研究課題名（和文）フローベール生成研究－初期作品群におけるファム・ファタル

研究課題名（英文）A Genetic Study of the Femme Fatale in Flaubert's First Novels

研究代表者

大鐘 敦子 (Ogane, Atsuko)

関東学院大学・法学部・教授

研究者番号：50350541

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、フローベールの初期作品群にみられる「宿命の女」に類する女性像やファタリテに関する証言を考察するとともに最初期の草稿や2019年に世界で初公開となった作家の初の自伝的小説『狂人の手記』の草稿を転記・解読して校訂版を完成し、フローベール作品に多大な影響を与えた女性の表象を捉え直した。またFemme du mondeなどファム・ファタルに関する最初期草稿の転記をフローベール 研究所で公開した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究課題「フローベール 初期作品群におけるファム・ファタル」において、Femme du monde や最初期の作品だけでなく、初期作品群のなかでももっとも大きく重要な価値ある幻の草稿Les Memoires d'un fou（『狂人の手記』）の転記・解読を完成することができた。2001年に初めて出版された信頼に足るエディション（プレイアド叢書、ゴトー・メルシュ女史編）では、叢書の制約により編集された箇所も多い。また出版当時の検閲とみられる箇所も含め、今回はじめて分析とともに厳密な草稿との相違点を公開できた。後期の長編小説『感情教育』につながる重要な作品に関して学術的な貢献となった。

研究成果の概要（英文）：The figure of 'femmes fatales,' which appears in Flaubert's work, has influenced considerably the concept of romanticism and symbolism in the nineteenth century. To reveal the originality of the figure of the 'femmes fatales,' we examined their configuration in the first novels, but also produced the diplomatic transcription of the 140 pages (70 folios) of the manuscript for Les Memoires d'un fou (Memoirs of a Madman), Flaubert's first autobiographical text, which presents the notion of fatality and the origin of the first encounter between Madame Arnoux and Frederic in A Sentimental Education.

研究分野：フランス文学・草稿研究

キーワード：フローベール 初期作品 「狂人の手記」 ファム・ファタル ファタリテ 「聖アントワーヌの誘惑」第2版 Femme du monde 宿命

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様式 C-19、F-19-1、Z-19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

19世紀フランスでは、「ファム・ファタル(宿命の女)」という概念は、文芸分野で最も注目されたテーマの一つであり、リアリズムの父フローベールの『ヘロディアス』や『サラムボー』(1862)を始めとする一連の作品における女性像は、この象徴主義的な神話形成概念の成立に多大な影響を与えたといわれている。研究代表者は最晩年のファム・ファタルの「サロメ」像から作家の作品を遡って、厳密な転記・解読による生成論的な視点と比較研究によりフローベールにおける女性像を検討してきた。

また、前課題研究の対象である『聖アントワーヌの誘惑』については、作品が生涯三度書き直されており、初期から中期の作品でもあり、百科全書的でありかつロマンティズムの色濃いジャンルの混交がみられる。そのため、この作品の初期から中期の第1版、第2版における女性像についても、初期作品の一部として引き続き研究対象とした。

2. 研究の目的

本研究は、19世紀後半の「ファム・ファタル神話」形成の原点にフローベールの初期作品が果たした役割をこれまで連続して実施してきた「ファム・ファタル神話」研究の成果を用いつつ、フローベールの草稿の特徴を考慮しながら、生成比較研究によって分析し、作家における女性像の変遷を辿る。特に以下の点について調査、分析等を行うことを目的とした。

(1) 初期作品の校訂批評(*Œuvres complètes*, I, Bibliothèque de la Pléiade, Gallimard, 2001)とフランス国立図書館に保存されている草稿類の調査をすることで、初期作品群の全体像を把握するとともに、作家の最初期であるデビュー以前の作品群における女性像の変遷と類型を調査する。フローベールの初期作品は Jean Bruneau による *Les débuts littéraires de Gustave Flaubert 1831-1845* が決定版として三つの区分を示しているが、当時未公開の作品も含め最新の資料でそれらの再検討も行う。

(2) 初期作品にみられるファム・ファタル的な女性像、あるいはジェンダーを超えた人物像の検討をするとともに、最初期の草稿の転記も必要であれば実施する。

(3) フローベールの初期作品は未だ十分な解明がなされていないため、『ボヴァリー夫人』出版による作家デビュー後の代表的長編小説群と初期作品におけるファム・ファタル性の関わりを解明する。

(4) 初期作品から後期作品までをカバーし、中期の過渡期にかかっている『聖アントワーヌの誘惑』第2版におけるいくつかの女性像の研究を深める。

3. 研究の方法

フローベールは、『ボヴァリー夫人』執筆を通じて、作家本来のロマンティズム的な傾向から、草稿に加筆・削除を繰り返す、読み上げながら加筆訂正をする膨大な草稿を書く作家に一挙に変貌した。初期の作品は書き直しも少なく、原典になる作品や考証資料、この作家に特有の「読書ノート」もないに等しい。書簡に痕跡すらない作品もあり、その数は総計で50作品近くに上る。そのため、そうした従来の草稿研究で実施するような考証資料との比較自体ができない状態にある。主な作業はフランス国立図書館で作業を実施し、資料に関しては、夏季休暇を利用して、フランス国立図書館、フランス国立科学研究センター(CNRS-ITEM)の近代テキスト草稿研究所(Institut des Textes et Manuscrits Modernes)図書室、ルーアン市立図書館で渉猟し、調査と転記を進めた。

4. 研究成果

(1) 研究期間を通じて、研究成果としての転記原稿は順次、数多くの世界的な草稿研究プロジェクトを完遂したことで知られるフローベール研究所サイト(ルーアン大学フローベール研究所)に草稿画像と共に掲載することができた。Gallicaの画像と共に見開きで世界に提供することができたのは、*Madame Bovary* や *Bouvard et Pécuchet* の巨大草稿プロジェクトでデジタル校訂版のわかりやすいオープンソースで世界的に知られ、草稿資料公開の最先端技術を誇る Yvan Leclerc 研究所長の勧めと協力によるものである。当初、より多くの初期作品を転記する予定であったが、最初期の作品は作家による加筆・訂正が少ないことなどから、*Femme du Monde* や *Voyage en enfer* など日本での翻訳でも知られた最初期の *femme fatale* に関わるものに限定した。

(2) また同時に、サバティカル研究のため延長したもう一方の課題研究「フローベール 『聖アントワーヌの誘惑』におけるファミ・ファタル神話研究」の枠内で、関東学院大学及び、大阪大学文学研究科と日本フランス語フランス文学会特別講演にフローベール研究の泰斗、Jeanne Bem 名誉教授招聘し、学术交流とシンポジウムを開催した際には、初期作品についての意見交換とヒアリングを行なった。

(3) なお、学術研究においては当初予期しない事象がおこることがあるが、本研究においても非常に稀な幸運があった。初期作品中でデビュー前の最大級の作品の一つであるがこれまで個人コレクターのみが保有していた非公開の、フローベールの初の自伝的小説である『狂人の手記』*Les Mémoires d'un fou* の草稿が 2018 年パリのオークションで競売にかけられ、フランス文学屈指の「計り知れない価値をもつ原稿」として、フランス国立図書館が買い取ったのである。ユゴーやプレヴェールの草稿も同時入手されたが、その筆頭で BnF の号外がでたのはフローベールのこの草稿についてであった。

フローベールの長編小説『感情教育』の冒頭のアルヌー夫人とフレデリックの出会いの場面は、フランス文学のなかでも最も美しい恋愛の出会いの場面の一つといわれているが、その出会いの場面は、この『狂人の手記』にフローベールが認めたエリザ・フーコー（シュレザンジェ夫人）とのノルマンディー地方トルーヴィル海岸での出会いに遡るものである。この草稿は長い間、これまで一度も一般に公開されたことはなく、René Descharmes および Claudine Gothot-Mersch 女史のみが個人コレクターの許可でようやく閲覧できたものである。しかし、2001 年に目の目を見た最も信頼ある唯一の Gothot-Mersch によるプレイアド校訂版ですら、初期作品ゆえの多くの作家の書き損じや欠けた文章、書き直しなど、編集箇所が多く、プレイアド叢書の編集可能な範囲内で校訂版を完成させており、註も網羅的とは言えず、多くの疑問箇所が残されていた。今回、初期作品の生成研究を課題としていたこと、*Salammbô* のプランとシナリオの解説を 2014 年に成功させたことなどから、この稀な貴重草稿のディプロマティック解説・転記の許可をフランス国立図書館から得ることができ、140 枚の草稿についてこれまでで最も厳密な転記を完遂することができた。競売時には「230 ほどの訂正箇所がある手稿」と銘打たれていたが、実際に数えてみると 560 箇所近くに登り、一見して容易にみえる文体も重複した書き損じ箇所など難解な箇所も多く、最重要草稿の一つでもあることから、最終チェックにはフランス国立科学研究所上級研究員の Stephanie Dords-Crouslé 女史の鑑定家としての協力を得た。プレイアド校訂版と異なる箇所などに関しては Yvan Leclerc フローベール研究所長とも慎重に議論を重ねて完成させ、研究期間の終わる 2020 年 3 月に世界公開することができた。

この転記・解説および草稿研究において、本手稿の 4 箇所に見出された紫色の特殊な手書きの削除線について、当初から研究代表者はフローベール以外の手による検閲ではないかという推測をしていた。研究代表者が最初期に公開された *La Revue blanche* や Flourey 版と、この草稿の検閲と見られる箇所の厳密な照合を実施した結果、以下のことが判明した。

- 1 確かに当初の二つの出版において、これらの箇所が意図的に削除されていること。当時オークションにでた Flourey 版に添えられその後消滅した作家の姪カロリーヌの書簡が存在することから、姪の意思が関わっている可能性が非常に高いこと。
- 2 4 箇所の紫の削除線のうち 3 箇所に共通するのは官能的でセクシュアルな場面であること。
- 3 結婚や公衆道徳、宗教道徳への侵害と取れる箇所が削除されていること。つまり『ボヴァリー夫人』裁判でも問題となったこれらの点に関わる箇所が意図的に削除されていること。

これらを新たな知見として、画像公開とともにプレゼンテーションで一般に紹介することができたのは非常に有意義であった。そして、プレイアド叢書では十分に説明がなされていなかった箇所や厳密な解説との相違点を、フランスの研究者たちの勧めで海外研究サイトで紹介することとなり、今後の初期作品研究に貢献することができた。

(4) 前科研費個人研究課題から引き続いて解説、分析を心がけてきた『聖アントワーヌの誘惑』(1856) 第 2 版については、2019 年 3 月にフローベール研究所サイト（ルーアン大学）に 193 枚の草稿のディプロマティック解説・転記の校訂版 *L'Édition diplomatique* を世界に公開することができ大きな成果となった。ミッシェル・フーコーによって 19 世紀の認識学を変えたともいわれた決定稿に至る以前に、フローベールが「*matière*」の語をスピノザ的な解釈から最終稿での進化論的・生物学的な文脈で使用しはじめていたことを削除線の下から発見した。これまで初稿のダイジェスト版として研究者や関係者たちからも全く顧みられることのなかった第二版の大きな価値を見出したことになる。この第二版の女性像については、特にファミ・ファタルの代表の一人であるフローベール的な「シヴァの女王」に関する論考をまとめ、2021 年のフローベール 生誕 200 周年における海外での掲載が決定している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 大鐘敦子	4. 巻 第29号
2. 論文標題 フローベール 初期作品群における女性の形象とファミ・ファタルの系譜	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 関東学院教養論集	6. 最初と最後の頁 29-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Atsuko Ogane	4. 巻 -
2. 論文標題 transcription sur Arts et Progres	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Site Flaubert	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Atsuko Ogane	4. 巻 -
2. 論文標題 transcription sur Femme du Monde	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Site Flaubert	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Atsuko Ogane	4. 巻 -
2. 論文標題 Decouvrir un lien, peut-etre, peut-etre, mais enfin un lien, un enchainement possible : La Tentation de saint Antoine (1856)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Site Flaubert	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大鐘敦子	4. 巻 -
2. 論文標題 「フローベールの草稿研究とデジタル化」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 「文献学の世界：書物の装い」	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Atsuko Ogane	4. 巻 -
2. 論文標題 Presentation de "Notes sur Cicéron, De natura deorum"	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 site Flaubert	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） http://flaubert.univ-rouen.fr/manuscripts/ciceron.php	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----